

対象年度	平成31年度							総合計画実施計画策定及び行政評価シート			
事務事業名	ふれあいセンター事業						予算事業名	施設運営管理経費			
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市生きがいふれあいセンターの設置及び管理に関する条例		
			03	01	09	1101	経常経費				
総合計画体系	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分	主要事業			
	1-4ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実(高齢者福祉)							重点事業			
	①高齢者福祉の総合的な推進						担当課係等	長寿福祉課			
	2高齢者の生きがいづくり							長寿支援係			
事業期間	継続 (昭和47年度～平成33年度)										
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】						【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
高齢者の介護予防, 健康増進及び生きがいづくりを図る。						昭和47年4月1日に, 筑西広域市町村圏事務組合から結城市へ事務移管され, 老人いこいの家として運営開始。平成11年度, 12年度に全面改修工事を経て, 平成18年9月28日「結城市生きがいふれあいセンター」と施設名称及び使用目的等の変更し現在に至る。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】						【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
結城市生きがいふれあいセンターを管理運営し, 高齢者のふれあいの場を提供するほか, 介護予防教室の場として活用する。今後当施設を継続して利用する場合, より地域の実情に合わせて利用していただくために, 地域での管理運営等を検討していく。						市内在住の高齢者					
						【事業をとりまく環境の変化】					
						高齢化は進展するなかで, 元気な高齢者に対する施策が重要となっている。高齢者が生きがいをもって生活することは介護予防につながり, 2025年問題を解決するカギとして, こうした元気な高齢者のマンパワーの活用が必要である。					
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】			
施設維持管理 自動ドア修繕 和室床の間修繕				施設維持管理				施設が老朽化しており, 大規模災害時に安全確保が難しい状態のため, 利用者に配慮しつつ施設使用について検討する。			

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	4,739	4,143			
歳入計(千円)		4,739	4,143			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	11 需用費	1,908	877			
	12 役務費	73	75			
	13 委託料	2,649	3,084			
	14 使用料及び賃借料	98	99			
	19 負担金補助及び交付金	11	8			
歳出計(千円)(A)		4,739	4,143			
伸び率(%)			-12.57			
備考	総合計画61ページ 予算書82ページ					

# 平成29年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位		H29年度	H30年度	H31年度
活動指標	利用者数	人	目標	8,000.00	8,200.00	8,400.00
	年間の施設延べ利用者数		実績	8,121.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	B どちらとも言えない	高齢者のふれあいや、介護予防教室の場として活用し、利用者も増加傾向にあるが、施設は老朽化しており、本施設以外でも高齢者の活動の場は市内にあるため、事業の必要性としてはどちらとも言えない。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	高齢者のふれあいや介護予防サービスを展開する場を市が運営する事は妥当である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	公共の場を無料で提供し、高齢者のふれあいや介護予防サービスを展開することは妥当性がないとは言えない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	平成30年度から管理人常駐化により、利用予約を施設で行う事としたため、事務の効率化を図る事ができた。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	無料で利用でき、個々の団体だけではなく、介護予防サービス事業でも施設を利用しており、住民に対して公平にサービスを提供している。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	利用団体数は横ばいながら、市が実施する介護予防サービス事業や団体の活発な活動により、利用者数は増加傾向にある。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	施設が老朽化しており、大規模災害時に安全確保が難しい状態のため、利用者に配慮しつつ施設使用について検討していく。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

高齢者の生きがいがづくり活動や、介護予防サービス事業実施の場として、施設稼働率約89.5%と高い状態にある。引続き利用者の安全に考慮した施設管理をしていく。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

施設老朽化のため現在の施設利用検討は必要であり、高齢者の生きがいがづくりの場は今後ますます必要となる事から、公民館整備事業により設置される地区分館等を活用していきたい。

## ■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）  改善改革しながら継続  現状のまま継続（改善・改革なし）  統合・新規事業への展開  
 縮小  休止  廃止・終了  予定どおりの要求  一部改善の上要求  今回は見送り  その他の処置

改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）

高齢者の文化スポーツ活動や介護予防の場として利用されており一定の役割は果たしている。しかし、施設の老朽化が激しく、軽微な施設改修では市民の安全が確保されない状況である。今後は新公民館や地区分館等の活用を段階的に進めていく必要がある。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）  改善改革しながら継続  現状のまま継続（改善・改革なし）  統合・新規事業への展開  
 縮小  休止  廃止・終了  予定どおりの要求  一部改善の上要求  今回は見送り  その他の処置

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

上記評価のとおり。